

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成20年4月3日(2008.4.3)

【公開番号】特開2002-339481(P2002-339481A)

【公開日】平成14年11月27日(2002.11.27)

【出願番号】特願2001-142047(P2001-142047)

【国際特許分類】

E 0 4 B 2/56 (2006.01)

E 0 4 B 2/94 (2006.01)

E 0 4 F 13/08 (2006.01)

E 0 4 F 13/21 (2006.01)

【F I】

E 0 4 B 2/56 6 0 1 A

E 0 4 B 2/56 6 0 1 B

E 0 4 B 2/56 6 0 4 B

E 0 4 B 2/56 6 2 2 C

E 0 4 B 2/56 6 2 2 H

E 0 4 B 2/56 6 4 2 E

E 0 4 B 2/94

E 0 4 F 13/08 Y

E 0 4 F 13/08 1 0 1 B

E 0 4 F 13/14 1 0 2 E

【手続補正書】

【提出日】平成20年2月18日(2008.2.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

なお、上記の取付け構造を形成するに際しては、係止部材 4 の A L C パネル 1 に対する締付けトルクのバラツキをできる限り小さくすることが望ましい。係止部材 4 の A L C パネル 1 に対する締付けトルクのバラツキを小さくすることによって、建物躯体 2 の変形に A L C パネル 1 をより一層バランスよく追従させることができ、本発明の効果を最大限に発現させることが可能となる。例えば係止部材としてスクリユウを使用し木造躯体に A L C パネルを取付ける場合のタッピングトルクは、 $196 \sim 1960 \text{ N} \cdot \text{cm}$ 、特に $686 \sim 1176 \text{ N} \cdot \text{cm}$ であり、1 枚の A L C パネル内でのタッピングトルクのバラツキを $\pm 10\%$ とすることが望ましい。ここで、スクリユウのタッピングにおいては、トルクが設定可能で一般的に入手しやすい充電式ドリルを使用することが好ましく、これによりタッピングトルクのバラツキを小さくできると共に、施工現場での優れた作業性を確保することができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 9】

また、タッピング・スクリユウ 4 としては、頭部の直径が 11.5 mm 、首下直径が 5 .

5 mm、長さが 60 mm のものを使用し、各貫通孔に対し充電式ドリルを用い、タッピングトルク 784 N・cm でねじ込んだ。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

[比較例 1] 実施例 1 において、ALC パネルにあらかじめ貫通孔を形成することを省略し、木造躯体に対し横積みした ALC パネルにおける実施例 1 と同じ個所に、実施例 1 と同様のタッピング・スクリユをそれぞれ充電式ドリルを用い、タッピングトルク 784 N・cm で直接ねじ込むことにより取付け構造を形成し、このように形成した取付け構造の ALC パネル側全表面に、実施例 1 と同様のせっ器質タイル 6 の 776 枚を、シリコン系有機弾性接着剤を使用して等間隔に張り付けることにより、図 8 に示した ALC パネル壁構造を構成した。